

ヒバクシャ 世界の終わりに (2003)

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 日本

色彩 Color

時間 116分

初公開日 2004/03/20

公開情報 グループ現代

【解説】

世界で初めて原爆が投下されてから57年が経過した今日でも、世界では新たに放射能の被害に苦しむ人々が絶えない。特に湾岸戦争以降、米軍が使用した劣化ウラン弾の影響で白血病やガンに冒される子どもたちが増え、大きな問題となっている。本作ではそんな放射能により健康被害を受けた人々を等しく“ヒバクシャ”と呼び、その実態を明らかにしていく。

91年の湾岸戦争で初めて実戦で使用された劣化ウラン弾。低コストで貫通力に優れた劣化ウラン弾は以後米軍に欠かせない兵器の一つとなった。しかし一方で、放射能を含んだ微粒子を大気中に飛散する劣化ウラン弾の人体や環境への悪影響が懸念されている。鎌仲監督が取材したイラク人少女ラシャはそんな劣化ウラン弾の影響で白血病に罹り14歳で亡くなった。広島で軍医として働いているとき原爆に遭遇した肥田舜太郎医師は、低線量の放射能がもたらす危険性を訴える。そして、微量放射能の被害が核開発や原発などによって世界に拡散していると警告する。

【クレジット】

監督 鎌仲ひとみ
プロデューサー 小泉修吉
川井田博幸
撮影 岩田まき子